

平成14年最新地質図発表会

松浦 浩久¹⁾・酒井 彰²⁾・吉田 朋弘³⁾

去る2002年11月27日,平成14年の最新地質図発表会が東京都北区王子の北トピアで開催されました。今年の最新地質図類は,最近の地質調査総合センターの研究動向を反映した出版物の特徴がよく現れていますので,その概要をご紹介します。またそれぞれの地質図類については,本稿に続くページに各出版物の著者らによって詳しく紹介されています。

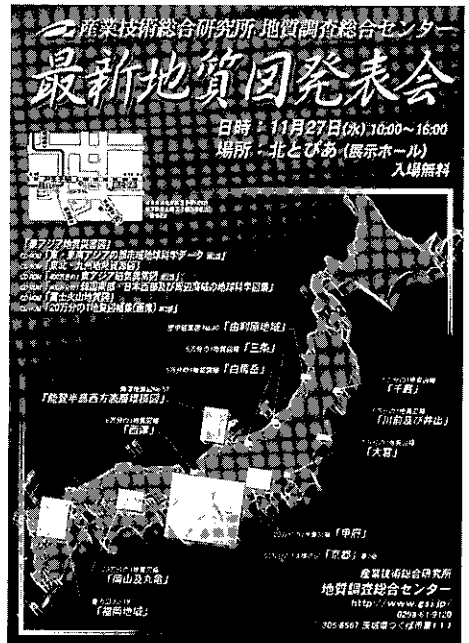
最新地質図発表会のこれまでの経過と,今回の取り組み

産業技術総合研究所(地質調査総合センター)では,毎年夏に最新刊の地質図の発表会を行って来ました。従来は,旧工業技術院各研究所の統一公開日に合わせて,つくば市の旧地質調査所を会場にして行ってきたイベントでしたが,昨年試験的に交通の便の良い都内に会場を求め開催いたしましたところ,コンサルタント等のお仕事で普段から地質図をご利用いただいている方はもちろん,地方自治体の防災関係の方や,保険のお仕事の方などこれから地質情報を利用してこうという方々からご好評をいただきました。

今年も,都内でJRおよび地下鉄の駅からすぐの便利な会場をお借りして,開催することができました。今年の会場は,昨年よりもかなり広がったので,部屋を迷路のように仕切らずに,周囲の壁面にボードを配置して展示したので,ゆったりと見ていただくことができました。展示は地質図類の種類ごとにタイトルの色を変えて区別し,全体にポスターの仕上がりは簡潔ですっきりとしたものになりました。

今回の発表地質図類の特徴

今回展示しました最新地質図類は以下の20件



第1図 最新地質図発表会の開催案内ポスター。

です。

- ・20万分の1地質図幅「甲府」,「岡山及丸亀」
- ・5万分の1地質図幅「千歳」,「三条」,「川前及び井出」,「大宮」,「白馬岳」,「西津」
- ・能登半島西方表層堆積図
- ・福岡地域重力図(ブーゲー異常)
- ・由利原地域高分解能空中磁気異常図
- ・東アジア地質災害図
- ・東・東南アジアの都市域地球科学データ-11都市のGISデータセット,第2版(数値地質図 G-8)
- ・東北・九州地熱資源図(数値地質図 GT-1)
- ・富士火山地質図(数値地質図 G-9)
- ・50万分の1活構造図「京都」
- ・20万分の1地質図集,第2版(数値地質図 G-3)

キーワード:最新地質図発表会,地質図,数値地質図,成果普及

1) 産総研 地球科学情報研究部門
2) 産総研 地質標本館
3) 産総研 地質調査情報部



写真1 展示地質図の解説風景。



写真2 「東北・九州地熱資源図」(CD-ROM)のデモンストレーション。

- ・400万分の1東アジア磁気異常図，第2版(数値地質図 P-3)
- ・400万分の1韓国南部・日本西部及び周辺海域の地球科学図集(数値地質図 P-4)
- ・200万分の1日本地質図第5版

今回の最新地質図類全20件中約3分の1に当たる6件が数値地質図で地質情報の発信と伝達媒体が印刷物のみからCD-ROMにも広がりを見せていることが分かります。また東南アジア地域の地質情報についての地質図類が4件含まれていることは、東アジア地域での地質情報の発信拠点として、日本が大きな役割を果たしていることを如実に物語っています。また従来からあるシリーズの出版物でも、地下地質についての情報が従来よりも格段に詳細に示された5万分の1地質図幅「大宮」や、地質の細かい構造に由来する磁気異常まで反映している「由利原地域高分解能空中磁気異常図」などに最近の地質調査情報センターの新たな研究動向が現れていると思います。

当日の様子と今後の課題

イベント規模としてはささやかで、お越しいただいた方の人数も決して多くはありませんでしたが、今年も地質コンサルタントの方を中心に、いろいろなタイプの地質図ユーザーの方々にお会いし、意見を伺うことができました。白馬岳の説明を熱心に聞き、登山の時に使いたいからと、北アルプスの地質図幅を数枚購入予約していった方、西津図幅に資料提供したが、付加体について基本的な解説を

直接聞きたいと行って来られた元地質調査会社の方、ぶらりと立ち寄ったが、地質図というのはどんなものか丁寧な説明を聞いてよくわかったという1時間くらい滞在した一般の方など、来場者は地質関係の方だけでなく階層が広がったという感を受けました。いろいろな方々が、それぞれの地質図を中心にした展示の前で、実際に調査・研究に携わった著者の言葉に耳を傾けてくださいました。私たちは、今後も皆さんの貴重なご意見をいただくとともに、地質図をより多くの方々にご利用いただくためのイベントをいろいろな形で開催していく予定です。

ただ今年出版の地質図を集めて並べただけのイベントと受け取られては、新機軸の研究成果であっても、足を運ぶのに値すると思われなかったのかもしれませんが、成果をPRするにしても、地質図の前に来た人だけに解説するのではなく、新機軸を目玉にした講演会を開いて、講演だけでは不足だという人たちのための展示討論会というやり方など、もう少し魅力のあるやり方の工夫が必要だと思いました。

なお、最新地質図発表会は会場が東京であったため、産業技術総合研究所内の皆様にも見ていただくために、12月3-5日に産業技術総合研究所つくば中央第7事業所の玄関ロビーで再展示を行いました。

MATSUURA Hirohisa, SAKAI Akira and YOSHIDA Tomohiro (2003): New geological map exhibition.

<受付: 2003年1月30日>